

「よくあてはまる」で評価
()内は「よくあてはまる」「あてはまる」
合わせたポイント

A...とても良好
B...良好(目標)
C...検討が必要
D...再検討・改善

※ 評価の観点による実現状況の達成判定基準は、A～Dの4段階の基準で評価したものである。
[a...よくあてはまる, b...あてはまる, c...あてはまらない, d...まったくあてはまらない]
※ 判定は、学期の業務遂行状況を教職員による学校評価アンケートや生徒・保護者アンケートの結果をA～Dの4段階の判定基準で評価したものである。また、その分析や改善結果・学校関係者評価について記載した。

Table with 10 columns: 重点, 経営ビジョン, 具体的な取組(重点項目), 質問紙NO, 評価の観点, 達成基準, 4月, 7月, 12月(現状), 結果分析・改善, 学校関係者評価, 次年度に向けて. It contains detailed evaluation data for two main categories: 'School Management Improvement' and 'Student Learning Power Enhancement'.

2	生きる力につながる学力をつける	自ら進んで学習する生徒の育成「知」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・家で勉強している生徒	⑧ 生徒	学んだことをふり返ったり(復習)次の授業の見通した勉強(予習)を家でしている。	aの割合 A-85% B-50% C-40%	49(92)	30(83)	24(91)	○7月評価(Check) 【評価・分析】 「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた生徒は83%だったが、「よくあてはまる」と答えた生徒は30%であり、4月から19%も下がり、目標には到達しなかった。特に1、2年生の割合の減少が顕著であった。	(前期) 部活動に対する気持ちは生徒によって違う。選択肢が少ないので自分がやりたい部に入れている子は少ないと思う。コロナにより活動時間が短くなったり、部停があったりしたが、「やりたい」という強い思いはないようである。	家庭学習については、「よくあてはまる」が6%減少し、目標を達成できなかった。しかし、「あてはまる」までを見ると8%増加している。学んだことをふり返ったり(復習)次の授業を見通した勉強(予習)を自分で行うことが、様々な課題解決に必要な力であり、学びに向かう人間力につながるものと考えられる。 今後よりカリキュラム(自主学習ノート)の終了冊数に応じて段階認定し、励まし褒める機会を持っていく。また、学習内容の質の向上を図るために、学級担任だけでなく、教科担任からも学習方法を示していく。その他にも意欲、習慣を含めた学力に課題を抱える生徒にもきめ細かく指導していく。 【求める生徒像】 ・復習や次の日の予習に取り組む生徒 【具体的な取組】 ・一人一人の学習到達状況を確認し、さらに意欲を引き出すための新たな取組
			【2. 具体的な取組(Plan)】 ・カリキュラム(家庭学習ノート)の書き方の指導、展示 ・カリキュラム一冊終了ごとに段位認定 ・テスト前にカリキュラムタイム(全校生徒で学習する時間)を実施 ・テスト前にカリキュラムタイム(自主学習時間)の確保	⑦ 保護者	お子さんは、家庭学習に自主的に取り組んでいる。	a+b A-85% B-75% C-65%	80%	82%	88%	【7月評価時点での成果と課題】 カリキュラムの質は全体的に高まっていることが見てとれる。部活動が本格的になり、帰宅時間も遅くなったことで、1、2年生においては昨年度とは違って家庭学習が十分に定着していないのではないかと考えられる。家庭学習を充実させることが学力向上にプラスに影響すると考え、課題となる。	○目標・計画の再設定(Action) 家庭学習の取組は個人差が大きいので、個別に家庭学習の取組について助言したりして意欲を促していく。	
			1 2 教師	家庭学習の質の向上を図る取組をしている。	a+b A-90% B-80% C-70%	100%	89%	100%	○目標・計画の再設定(Action) 家庭学習の取組は個人差が大きいので、個別に家庭学習の取組について助言したりして意欲を促していく。			
3	豊かな心と健やかな体を育てる	互いの良さを認め合う生徒の育成「徳」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・互いの良い行いや長所を見つけることができる生徒	⑪ 生徒	友達の良い行いや長所を見つけることができる。	aの割合 A-65% B-50% C-35%	63(98)	45(95)	55(96)	○7月評価(Check) 【評価・分析】 生徒、保護者、教師すべての観点で概ね高いポイントとなっており、家庭と学校双方から相乗的に働きかけがなされていると考えられる。「友達の良い行いや長所を見つけることができる」の項目に関しては、「よくあてはまる」と答えた生徒の割合が4月から18%下がり、C判定であった。	(後期) 中学生は自分の評価を自分でうまくできない。自信を持って高い評価をあげない。そういう判断もできないのが現状である。年齢に関係なく、失敗してもいい環境を作ってやるのが大事である。やってみる、手を付けてみる。そして、失敗しても成功につながるために寄り添ってやる。信じて任せてあげることが大事である。後向き姿勢で関わるのはダメである。任せてもらえてうれしかった。失敗しても次につなげることができて楽しかった。このことが自信につながる。 良い子は何でもできるけど、失敗したときのことを考えてしまう。失敗してもいいやという感覚を身に付けて欲しい。 自己肯定感を高めるために河内小では、オープンハートアンケートの項目に「自分には良いところがある」というのがある。小学校の段階から自己肯定感が低い。そこで、A・B・CでCにチェックした子には担任がすぐに声をかけ、良い所を言ってあげている。子どもは気づかずに生活しているの、気づかせてやることも大切である。 何でも手をかけすぎないことも大事である。	【評価を終えて】 「友達の良い行いや長所を見つけることができる」の項目で「よくあてはまる」が7月より10%増加した。生徒同士が良いところを見つけて名前やその行為を書き「とりごえもの羽」が定着してきている。また、生徒会でも強化週間を設けて他学年の良さを発見したり、クラス全員の名前が書かれるようにした取組を行ったことも影響していると思われる。 今後行事においては他学年に目を向けさせたり、クラス全員の良さを発見するといった生徒の意識を変えてあげよう活動を定期的に行うなどして、自尊感情を育むとともに他者への思いやりが自然と生まれるようにしていく。 【求める生徒の姿】 ・互いのよい行いや長所を見つけることができる生徒 【具体的な取組】 ・毎日の生活を通して教師による働きかけの推進 ・他者に対する思いやりの心を育てるための道徳授業の取組
			【2. 具体的な取組(Plan)】 ・各学級に道徳コーナーを設置 ・道徳掲示の充実 ・生徒会主催で「とりごえもの羽」(友達の良い行いを伝え合うカード)の取組 ・各学級で行事の後などに、感謝の気持ちや良い行動を伝え合う	1 5 教師	互いの良いところを見つけ、伝え合うための指導を行っている。	a+b A-90% B-80% C-70%	100%	100%	100%	【7月評価時点での成果と課題】 生徒同士で良いところを見つけ発表し合う「とりごえもの羽」について、生徒の意識が高まっていることが見て取れる。この活動を行うことによって、生徒の自己有用感を育て、他者への思いやりが自然と生まれるように進めていきたい。	○目標・計画の再設定(Action) 「とりごえもの羽」の取組は浸透しているの、質の深まり・向上を重点的に行っていく。3学年の交流の機会があれば、他学年のことに書いていたり、この期間にクラス全員の良い所や長所を見つけ投函しようといった取組も考えられる。また、とりごえもの羽以外に、各学級での取組も行うことでさらに効果的になると考えられる。	
			⑫ 生徒	友達に対して、思いやりの心で行動している。	a+b A-95% B-85% C-75%	97%	99%	98%	○目標・計画の再設定(Action) 「とりごえもの羽」の取組は浸透しているの、質の深まり・向上を重点的に行っていく。3学年の交流の機会があれば、他学年のことに書いていたり、この期間にクラス全員の良い所や長所を見つけ投函しようといった取組も考えられる。また、とりごえもの羽以外に、各学級での取組も行うことでさらに効果的になると考えられる。			
			⑩ 保護者	お子さんは、友達に対して、思いやりの心で行動している。	a+b A-95% B-85% C-75%	97%	98%	99%	○目標・計画の再設定(Action) 「とりごえもの羽」の取組は浸透しているの、質の深まり・向上を重点的に行っていく。3学年の交流の機会があれば、他学年のことに書いていたり、この期間にクラス全員の良い所や長所を見つけ投函しようといった取組も考えられる。また、とりごえもの羽以外に、各学級での取組も行うことでさらに効果的になると考えられる。			
			1 6 教師	道徳の授業を要とした道徳教育の工夫で、生徒に思いやりの心が育てられている。	a+b A-95% B-85% C-75%	100%	89%	100%	○目標・計画の再設定(Action) 「とりごえもの羽」の取組は浸透しているの、質の深まり・向上を重点的に行っていく。3学年の交流の機会があれば、他学年のことに書いていたり、この期間にクラス全員の良い所や長所を見つけ投函しようといった取組も考えられる。また、とりごえもの羽以外に、各学級での取組も行うことでさらに効果的になると考えられる。			
3	豊かな心と健やかな体を育てる	心と体を鍛える生徒の育成「体」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・きちんとあいさつしている生徒 ・自律清掃で自分の心を磨いている生徒	⑬ 生徒	どこでも誰に対しても自分からあいさつしている。	a+b A-95% B-85% C-75%	99%	97%	91%	○7月評価(Check) 【評価・分析】 地域とのつながりが深いこともあり、「あいさつ」の項目については生徒、保護者ともに「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた割合が高かった。自律清掃に関する項目については4月の調査から「よくあてはまる」のみが14%下がる結果となった。	(前期) 基本的なことをしっかりやることは、大学、社会人になったときに役立つ。自律清掃は計画的にみつけ清掃をするのだが、基本清掃しかできていないのが現状である。 (後期) ・河内小は形式的なものではあるが、自然な挨拶はできない。自然な挨拶ができるようにして小学校から中学校につなげたい。 ・日本人は内気な人種である。照れくさかったり、恥ずかしいと思ったりする。自分から声をかけるのが恥ずかしい。そこで、何で挨拶するのかを子どもに考えさせる。「挨拶されたら気持ちよくない?」「気持ちいいことをしてあげたいと思わない?」と、教員が意識して子どもに働きかけていく。 ・挨拶をして欲しかったら、自分からである。 ・知らない人に声をかけるのは連れ去り事件に巻き込まれることを考えてしまう。なんでも「～してはいけません」から入ってしまう。心配事はおいておく。ネガティブ発信ではなく、ポジティブ発信をしていく。	【評価を終えて】 挨拶に関する項目については「よくあてはまる」が8%減少している。2学期の様子を見る限り挨拶の数が小さくなってきたりしていた実態が伺える。12月中旬より生徒会執行部で挨拶運動に取り組みできたこともあり、改善傾向がみられるが、挨拶の数が響き合う学校を目指して、教師からも積極的に挨拶をしていきたい。 自律清掃については「よくあてはまる」のみを見ると12%減少したが、「あてはまる」までみると100%である。生徒の実態を見る限り黙々と取り組んでおり、嫌なことから逃げ出すような取組にはなっていない。今後は高いレベルを求めすぎず、しっかりと掃除ができていないことを評価し、自信を持って「よくあてはまる」と答えられるようにしていきたい。 【求める生徒の姿】 ・大きな声、丁寧な所作であいさつしている生徒 ・自律清掃で自分の心を磨いている生徒 【具体的な取組】 ・生徒会執行部を中心としたあいさつ運動の実施 ・全校集会での自律清掃に関する共通理解 ・生徒のやる気を引き出す教師のサポートの推進
			【2. 具体的な取組(Plan)】 ・生徒会執行部を中心としたあいさつ運動の実施 ・全校集会での自律清掃に関する共通理解 ・学級日誌への振り返りの記入と記入内容の全体への還元 ・生徒会委員会による横断的運動の立案実行	⑪ 保護者	お子さんは学校や地域で元気にあいさつしている。	a+b A-90% B-80% C-70%	91%	91%	99%	【7月評価時点での成果と課題】 生徒会のあいさつ運動や育友会のあいさつ運動などが成果につながっている。自律清掃については「あてはまる」まで含めると98%と高い割合を示しているが、「よくあてはまる」の割合が下がっていることは、自律清掃への取組についての趣旨を再度確認する必要がある。	○目標・計画の再設定(Action) 取り組みがマンネリ化してきているので、反省会の持ち方を工夫するなどして意識を高めていく。また、生徒会でゴミ拾い等、気付きに関する取組等を行い、清掃の質をさらに高めていきたい。	
			1 8 教師	進んであいさつができるように指導している。	a+b A-90% B-80% C-70%	100%	100%	100%	○目標・計画の再設定(Action) 取り組みがマンネリ化してきているので、反省会の持ち方を工夫するなどして意識を高めていく。また、生徒会でゴミ拾い等、気付きに関する取組等を行い、清掃の質をさらに高めていきたい。			
			⑮ 生徒	自律清掃(無言、見つけ)を意識して清掃に取り組んでいる。	aの割合 A-65% B-50% C-35%	62(97)	48(98)	33(100)	○7月評価(Check) 【評価・分析】 「地域に関心を持ち、その良さを理解している」の項目では「よくあてはまる」と答えた割合は21%も下がったものの、「あてはまる」まで含めた割合は生徒、保護者、教職員の回答は高い評価であった。	【7月評価時点での成果と課題】 地域とのつながりが強い学校であり、家庭からの期待も高い。生徒の愛郷心をさらに高められるように、学校生活を充実させていく必要がある。また、行事や授業等でできるかぎり地域と連携した取組を行っていく。	○目標・計画の再設定(Action) 生徒の愛郷心をさらに高められるよう、地域の資源や人材を学校行事に活用する。また、活動の後は生徒に作文を書かせるなど振り返らせる機会を持つ。	
			2 0 教師	自律清掃(無言、見つけ)を意識した指導をしている。	a+b A-90% B-80% C-70%	90%	100%	100%	○目標・計画の再設定(Action) 生徒の愛郷心をさらに高められるよう、地域の資源や人材を学校行事に活用する。また、活動の後は生徒に作文を書かせるなど振り返らせる機会を持つ。			
3	豊かな心と健やかな体を育てる	ふるさとに誇りを持つ生徒の育成「家庭・地域連携」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・地域に誇りを持つ生徒	⑯ 生徒	地域に関心を持ち、その良さを理解している。	aの割合 A-70% B-60% C-50%	54(89)	33(88)	36(95)	○7月評価(Check) 【評価・分析】 「地域に関心を持ち、その良さを理解している」の項目では「よくあてはまる」と答えた割合は21%も下がったものの、「あてはまる」まで含めた割合は生徒、保護者、教職員の回答は高い評価であった。	(前期) 少人数だからのメリット、デメリットがある。小さいときからの人間関係ができていく。高校に行ったらカルチャーショックを受ける。高校に行ったら自己主張できるの心配である。同じ仲間同士で話し合いではなく、見慣れない人と話し合い、自分たちがやってきたことを発表する機会を持ってみてはどうだろうか。GIGA端末があるのでそうした取組も考えていきたい。 少人数で自然の中である。良い環境の中で教育されている。ただ、交通の便が悪いのでバスの乗り方等、将来、都会に出たときに社会性を育てる必要がある。	【評価を終えて】 「地域に関心を持ち、その良さを理解している」の項目では「よくあてはまる」のみと3%の増加であったが、「あてはまる」まで見ると7%増加した。また、「地域に貢献したい」と回答した生徒も13%増加した。2学期の文化発表会に向け、総合的な学習において地域の良さと課題について考えたこと。また、他学年の発表を聞くことを通じて地域の良さを実感したと思われる。地域についての学習をさらに進めるとともに、地域人材を積極的に活用して愛郷心を育てていきたい。 【求める生徒像】 ・地域に誇りを持つ生徒 【具体的な取組】 ・地域教材を発掘し、地域の方々との連携によるふるさと教育の推進
			【2. 具体的な取組(Plan)】 ○生徒に地域の良さを知らせ、地域に参画できる生徒の育成 ・白山麓の良さを知り、ジオパークの推進 ・道徳の授業の工夫(地域教材の活用、地域GTの活用) ・運動会、文化祭で地域の文化に触れる ・地域の行事への積極的参加	2 1 教師	地域に関心を持ち、その良さを理解するように取り組んだ。	a+b A-90% B-80% C-70%	100%	100%	90%	【7月評価時点での成果と課題】 地域とのつながりが強い学校であり、家庭からの期待も高い。生徒の愛郷心をさらに高められるように、学校生活を充実させていく必要がある。また、行事や授業等でできるかぎり地域と連携した取組を行っていく。	○目標・計画の再設定(Action) 生徒の愛郷心をさらに高められるよう、地域の資源や人材を学校行事に活用する。また、活動の後は生徒に作文を書かせるなど振り返らせる機会を持つ。	
			1 7 生徒	地域に貢献したいと考えている。	a+b A-90% B-80% C-70%	90%	80%	93%	○目標・計画の再設定(Action) 生徒の愛郷心をさらに高められるよう、地域の資源や人材を学校行事に活用する。また、活動の後は生徒に作文を書かせるなど振り返らせる機会を持つ。			
			2 2 教師	地域への貢献意欲を高める指導をした。	a+b A-90% B-80% C-70%	90%	80%	90%	○目標・計画の再設定(Action) 生徒の愛郷心をさらに高められるよう、地域の資源や人材を学校行事に活用する。また、活動の後は生徒に作文を書かせるなど振り返らせる機会を持つ。			